

小石川植物園内の湧水・地下水および植生の保全のために

小石川植物園内の崖の下部には沢山の湧き水があります。また、上の台地には有名な養生所の井戸もあります。これらの水は、関東大震災のときに、3万におよぶ人々の命の水となったと言われています。現在でも、植物園は広域避難所に指定され、湧水・井戸水は大震災時の緊急用水となっています。

現在、植物園の北西側隣で進められているマンション建設計画では、地下住居及び地下駐車場を設けるため、地下9メートルにおよぶ構造物が作られることになっています（おおよその大きさは、深さ5mで広さ90m×80m、その中央部に深さ9mで広さ70m×35m）。この構造物およびその建設工事によって、植物園の湧き水の一部が、減ったり涸れたりするかも知れないという事態が生じ、マスコミなどでも報じられました。

植物園上部とその周辺の台地には古くから沢山の浅井戸がありました。江戸時代の古文書には、植物園内の台地上だけでも30ヶ所以上の井戸が記されています。現在でも、植物園北側の林町小学校の校庭脇には、手押しポンプで簡単に水が出でてくる井戸があります。こうした水は、関東ローム層の下部に貯まった水と考えられます。そしてその一部は植物園の樹木を育て、崖下部の湧水の源の1つとなっているものと思われます。

もし、台地の地下5～6メートルのところに貯まる水の流れがさえぎられて、植物園の北西部の水が減少すれば、乾燥化・高温化が進み、湧水はもとより樹木にも大きな影響が出ることは避けられません。

地下は地上と違って直接見ることはできませんので、「みずみち」などはごく少ないデータから推定するしかありません。したがって、今後できるだけボーリングデータを増やして地下の地質構造を明らかにするとともに、季節変動も考慮して最低1年間以上は雨水・湧水・井戸水の水量・水質に関する調査を行うことが必要であると考えます。

ひとたび影響が現れた場合には、いかなる代替措置を講じても元へは戻らないことは明白であり、過去の多くの事例がそれを示しています。私たちは、小石川植物園の湧水および植生への影響はないと言えないまま、工事が始められようとしていることに大きな危惧を抱いています。

平成 15 年 10 月 19 日

小石川植物園を守る会

(事務局 tel&fax 03-3946-0589)

小石川植物園を守る会活動概略

9.22	植物園を守る会集会 講師／東京農工大小倉紀夫名誉教授
23	朝日新聞記事「東大、理学部で検討へ」 毎日新聞記事「守る会」が活動本格化
24	文京区環境対策課中村課長に要望書提出
27	「環境ネットワーク・文京」の理事会に出席
30	小島延夫弁護士訪問
10.2	住友不動産による工事説明会に参加
3	小石川植物園三浦主任訪問
4	(財)深田地質研究所訪問 文京区長「街かど対話」参加(区に対応を求める)
5	東大新報発行「植物園を守れ！」
7	水みち研究会 神谷博氏と植物園隣地にて面談
9	小島延夫弁護士訪問
10	東京農工大小倉名誉教授、小石川植物園邑田園長と面談 白山・心光寺清水龍光ご住職(「水 江戸・東京／水の記録」著者)とともに小倉名誉教授と植物園にて面談 東京都環境局訪問
12	近隣井戸の聞き取り調査開始
14	文京区 建築指導課職員と面談 東京都 情報公開請求(緑化計画書) ・環境局都市地球環境部、自然環境部水環境課訪問 住友不動産本社訪問
15	東京都 建設局、環境局都市地球環境部、下水道局訪問
16	東京大学広報室訪問
18	小島延夫弁護士訪問
19	「植物園を守る会」集会
20	住友不動産に対し、23日説明会時の資料請求 文京区学芸員加藤氏と面談(千石2丁目遺跡調査についてお聞きする)
21	白山・心光寺清水龍光住職と面談(26日名泉・緊急ミーティングの講演依頼)
23	住友不動産説明会
19,21,23 21,23,24,25	次郎稻荷湧水とミズバショウ池湧水の標高測量 同上の水温測定

